

## 福岡県馬術競技場の個別施設計画について

### 【施設の概要】

対象施設	福岡県馬術競技場		
所管	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課		
整理番号	62	竣工年度	昭和 63 年度
所在地	福岡県古賀市筵内 5 6 4		
敷地面積 ( m <sup>2</sup> )	2,408.92	建築面積 ( m <sup>2</sup> )	4,057.81
主構造	R C、S 等	延床面積 ( m <sup>2</sup> )	4,175.29
主要建築物	管理棟、覆馬場、大会用厩舎、厩舎		

福岡県馬術競技場は、とびうめ国体の開催を契機に設置され、馬術競技の普及振興並びに技術向上を図り、心身の健全な発達に寄与することを目的としています。

特に多い馬場は西日本屈指の大きさを誇り、採光や屋根に工夫を凝らした、昼夜全天候型の競技場となっています。

### 【個別施設計画の策定単位】

福岡県馬術競技場の個別施設計画については、当該施設を構成する建築物を①管理棟、②覆馬場、③大会用厩舎、④厩舎の4つに分け、それぞれについて今後の改修等に関する計画を策定しました。



福岡県馬術競技場  
管理棟  
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	6 2
施設所管課	教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課

令和2年2月

❀ 福 岡 県 ❀

福岡県馬術競技場管理棟  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県馬術競技場		
所 管	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課		
整 理 番 号	62	竣工年度	昭和 63 年度
所 在 地	福岡県古賀市筵内 5 6 4		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	2,408.92	建築面積 (m <sup>2</sup> )	4,057.81
主 構 造	R C、S 等	延床面積 (m <sup>2</sup> )	4,175.29
主 要 建 築 物	管理棟、覆馬場、大会用厩舎、厩舎		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	管理棟				
棟 番 ・ 枝 番	1012	—	1	竣工年度	昭和 63 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	191.89		延床面積 (m <sup>2</sup> )	309.37	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 2 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積 (m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
2F	117.48	研修室等			
1F	191.89	事務室及び食堂等			

福岡県馬術競技場の管理棟はとびうめ国体開催にあたり、昭和 63 年度に竣工しました。

馬術競技の普及振興並びに技術向上を図り、心身の健全な発達に寄与することを目的とした施設となっています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築31年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築31年を経過し、標準的な改修時期を過ぎている部位も多いため、予防保全型の管理による計画的な改修を行っていきます。

### (3) その他

敷地内には管理棟のほか、覆馬場や厩舎などがあります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

外壁でひび割れによる劣化が見られますが、建物に大きな問題はありません。

施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っています  
が、予防保全による改修はできていない状況です。

#### (2) 建物全体の現存率

**現存率算定表**

施設名称	福岡県馬術競技場		建物名称	管理棟				
所在地	古賀市筵内564		棟番・枝番	1012	-	1	築年数	31年
建築年度	昭和63年度	建築面積	191.89 m <sup>2</sup>	現存率	81.3	想定耐用年数	65年	
構造・階数	RC 2	延面積	309.37 m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	RC	31	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	コンクリート防水	31	66.7	13.34		
	外壁	20	塗装	31	80.0	16.00		
	小計						29.34	
電気設備	受変電設備	10		31	60.0	6.00		
	小計						6.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		31	60.0	6.00		
	小計						6.00	
合計						81.34		

この結果、福岡県馬術競技場の管理棟の現存率は「81.3」となります。



○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	コンクリート防水	66.7	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			経年（新設もしくは改修後）	経年 30 年以上
外壁	塗装	80.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			漏水の発生・痕跡の有無	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
内壁	タイル貼り ビニールクロス	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
天井	化粧石こうボード	100.0		
床	タイル貼り ビニール床タイル張り ビニールシート張り	80.0		
建具	木製	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
自家発電設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
消火設備	消火設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 30 年以上
エレベーター 設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1988	31	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、福岡県馬術競技場(管理棟)の目標耐用年数を原則どおり 65 年(残年数を 34 年)と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築31年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は34年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿って、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

		(百万円)		
区分	項目	実施時期		
		令和元～2年度	令和3～5年度	令和6～8年度
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	8	10
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	6	7	6
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	13	0	9
その他	競技場内照明等	0	1	2
計		19	16	27

※上記は実際の予算や事業費等とは異なります。

# 福岡県馬術競技場

## 覆馬場

### 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	6 2
施設所管課	教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課

令和2年2月

❀ 福 岡 県 ❀

福岡県馬術競技場覆馬場  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県馬術競技場		
所 管	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課		
整 理 番 号	62	竣工年度	昭和 63 年度
所 在 地	福岡県古賀市筵内 5 6 4		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	2,408.92	建築面積 (m <sup>2</sup> )	4,057.81
主 構 造	RC、S等	延床面積 (m <sup>2</sup> )	4,175.29
主 要 建 築 物	管理棟、覆馬場、大会用厩舎、厩舎		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	覆馬場				
棟 番 ・ 枝 番	1012	—	2	竣工年度	昭和 63 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	2,408.92		延床面積 (m <sup>2</sup> )	2,408.92	
構 造 ・ 階 数	RC造 地上1階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積 (m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
1F	2408.92	馬術練習場			

福岡県馬術競技場の覆馬場はとびうめ国体開催にあたり、昭和 63 年度に竣工しました。

屋内馬場としては、西日本屈指の大きさを誇り、採光や屋根に工夫を凝らした昼夜全天候型競技場となっています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景





## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築31年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

築31年を経過し、標準的な改修時期を過ぎている部位も多いため、予防保全型の管理による計画的な改修を行っていきます。

### (3) その他

敷地内には覆馬場のほか、管理棟や厩舎などがあります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

経年による老朽化が進行している状態ですが、建物に大きな問題は見られません。

施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状況です。

#### (2) 建物全体の現存率

**現存率算定表**

施設名称	福岡県馬術競技場		建物名称	覆馬場			
所在地	古賀市筵内564		棟番・枝番	1012	- 2	築年数	31年
建築年度	昭和63年度	建築面積	2,408.92 m <sup>2</sup>	現存率	72.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC 1	延面積	2,408.92 m <sup>2</sup>				
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	RC	31	100.0	40.00	
	小計						<b>40.00</b>
主要部仕上げ	屋根・防水	20	テント	31	20.0	4.00	
	外壁	20	塗装	31	80.0	16.00	
	小計						<b>20.00</b>
電気設備	受変電設備	10		31	60.0	6.00	
	小計						<b>6.00</b>
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		31	60.0	6.00	
	小計						<b>6.00</b>
合計						<b>72.00</b>	

この結果、福岡県馬術競技場の覆馬場の現存率は「72.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	テント	20.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	—
			防水層の劣化	—
			経年（新設もしくは改修後）	経年 30 年以上
外壁	塗装	80.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			漏水の発生・痕跡の有無	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
内壁	モルタル EP 仕上げ無し	100.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生している が機能上問題なし
天井	仕上げ無し その他	60.0		
床	モルタル塗り その他	100.0		
建具	不明	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
自家発電設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	—	00.0	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
消火設備	消火設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 30 年以上
エレベーター 設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1988	31	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、福岡県馬術競技場(覆馬場)の目標耐用年数を原則どおり 65 年(残年数を 34 年)と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築31年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は34年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿って、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

(百万円)				
区分	項目	実施時期		
		令和元～2年度	令和3～5年度	令和6～8年度
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	75	78
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	55	32
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	0	72
その他	外構	0	0	0
計		0	130	182

※上記は実際の前算や事業費等とは異なります。

福岡県馬術競技場  
大会用厩舎  
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	6 2
施設所管課	教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課

令和2年2月

❀福岡県❀

福岡県馬術競技場大会用厩舎  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	



## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県馬術競技場		
所 管	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課		
整 理 番 号	62	竣工年度	昭和 63 年度
所 在 地	福岡県古賀市筵内 5 6 4		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	2,408.92	建築面積 (m <sup>2</sup> )	4,057.81
主 構 造	R C、S 等	延床面積 (m <sup>2</sup> )	4,175.29
主 要 建 築 物	管理棟、覆馬場、大会用厩舎、厩舎		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	大会用厩舎				
棟 番 ・ 枝 番	1012	—	3	竣工年度	平成 4 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	714.84		延床面積 (m <sup>2</sup> )	714.84	
構 造 ・ 階 数	補強コンクリート造 地上 1 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積 (m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
1F	714.84	馬房等			

福岡県馬術競技場の大会用厩舎はとびうめ国体開催を記念して、平成 4 年度に竣工しました。

馬術競技の普及振興並びに技術向上を図り、心身の健全な発達に寄与することを目的とした施設となっています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築27年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

標準的な改修時期を過ぎている部位も多いため、予防保全型の管理による計画的な改修を行っていきます。

### (3) その他

敷地内には大会用厩舎のほか、管理棟や覆馬場などがあります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

屋根部において副ボルトの錆や表面劣化が見られ、外部では鉄骨の錆など、経年による老朽化が進行している状態です。

施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状況です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	福岡県馬術競技場		建物名称	大会用厩舎				
所在地	古賀市筵内564番地		棟番・枝番	1012	-	3	築年数	27年
建築年度	平成4年度	建築面積	714.84 m <sup>2</sup>	現存率	74.7	想定耐用年数	65年	
構造・階数	補強コンクリート造 1	延面積	714.84 m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	補強コンクリート造	27	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	石綿波型スレート(大波)	27	53.3	10.66		
	外壁	20	石綿波型スレート(小波)	27	60.0	12.00		
	小計						22.66	
電気設備	受変電設備	10		27	60.0	6.00		
	小計						6.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		27	60.0	6.00		
	小計						6.00	
合計						74.66		

この結果、福岡県馬術競技場の大会用厩舎の現存率は「74.7」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	補強コンクリート	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	石綿波型スレート(大波)	53.3	防水層からの漏水 またはその痕跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範囲に少しずつの劣化がある</li> <li>・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある</li> <li>・ 部分修繕でも対応可能</li> </ul>
			防水層の劣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範囲に少しずつの劣化がある</li> <li>・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある</li> <li>・ 部分修繕でも対応可能</li> </ul>
			経年（新設もしくは改修後）	経年 20 年以上
外壁	石綿波型スレート(小波)	60.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範囲に少しずつの劣化がある</li> <li>・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある</li> <li>・ 部分修繕でも対応可能</li> </ul>
			漏水の発生・痕跡の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範囲に少しずつの劣化がある</li> <li>・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある</li> <li>・ 部分修繕でも対応可能</li> </ul>
内壁	鉄骨表わし	00.0	劣化	—
天井	鉄骨表わし	00.0		
床	モルタル塗り	00.0		
建具	アルミサッシ	00.0		
			開閉作動・取付け状態	—

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
自家発電設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	00.0	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明・ 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
消火設備	消火設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
エレベーター 設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1992	27	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、福岡県馬術競技場(大会用厩舎)の目標耐用年数を原則どおり 65 年(残年数を 38 年)と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築27年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は38年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿って、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

		(百万円)		
区分	項目	実施時期		
		令和元～2年度	令和3～5年度	令和6～8年度
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	0	6
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	16	11
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	16	5
その他	外壁	0	0	0
計		0	32	22

※上記は実際の前算や事業費等とは異なります。



# 福岡県馬術競技場

## 厩舎

### 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	6 2
施設所管課	教育庁教育振興部 体育スポーツ健康課

令和2年2月

❀ 福 岡 県 ❀

福岡県馬術競技場厩舎  
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡県馬術競技場		
所 管	教育庁教育振興部体育スポーツ健康課		
整 理 番 号	62	竣工年度	昭和 63 年度
所 在 地	福岡県古賀市筵内 5 6 4		
敷 地 面 積 ( m <sup>2</sup> )	2,408.92	建築面積 (m <sup>2</sup> )	4,057.81
主 構 造	R C、S 等	延床面積 (m <sup>2</sup> )	4,175.29
主 要 建 築 物	管理棟、覆馬場、大会用厩舎、厩舎		

### (2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	厩舎				
棟 番 ・ 枝 番	1012	—	4	竣工年度	昭和 63 年度
建 築 面 積 ( m <sup>2</sup> )	742.16		延床面積 (m <sup>2</sup> )	742.16	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 1 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階別	階床面積 (m <sup>2</sup> )	主 な 用 途 ( 室 名 他 )			
1F	742.16	馬房等			

福岡県馬術競技場の厩舎はとびうめ国体開催にあたり、昭和 63 年度に竣工しました。

馬術競技の普及振興並びに技術向上を図り、心身の健全な発達に寄与することを目的とした施設となっています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築31年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

### (2) 施設内での優先順位

厩舎については、馬が水を飲むことにより、水飲み場の水が少なくなったら自動で給水するための設備（ウォーターカップ）が多数故障し、定期的に職員がバケツに水を汲んで与えている状況です。そのため、必要な時に十分な水を馬に与えられていない可能性もあるため、優先的に改修を行います。

その他予防保全型管理のうえでの標準的な改修時期に合わせた計画的な改修を行っていきます。

### (3) その他

敷地内には厩舎のほか、管理棟や覆馬場などがあります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

屋根部において副ボルトの錆や表面劣化が見られ、外部では鉄骨の錆など、経年による老朽化が進行している状態です。

施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状況です。

#### (2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	福岡県馬術競技場		建物名称	厩舎				
所在地	古賀市筵内564番地		棟番・枝番	1012	-	4	築年数	31年
建築年度	昭和63年度	建築面積	742.16 m <sup>2</sup>	現存率	73.3	想定耐用年数	65年	
構造・階数	石綿板張り 1	延面積	742.16 m <sup>2</sup>					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	石綿板張り	31	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	石綿波型スレート(大波)	31	46.7	9.34		
	外壁	20	石綿波型スレート(小波)	31	60.0	12.00		
	小計						21.34	
電気設備	受変電設備	10		31	60.0	6.00		
	小計						6.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		31	60.0	6.00		
	小計						6.00	
合計						73.34		

この結果、福岡県馬術競技場の厩舎の現存率は「73.3」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	石綿板張り	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	石綿波型スレート(大波)	46.7	防水層からの漏水 またはその痕跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範囲に少しずつの劣化がある</li> <li>・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある</li> <li>・ 部分修繕でも対応可能</li> </ul>
			防水層の劣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範囲に少しずつの劣化がある</li> <li>・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある</li> <li>・ 部分修繕でも対応可能</li> </ul>
			経年（新設もしくは改修後）	経年 30 年以上
外壁	石綿波型スレート(小波)	60.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範囲に少しずつの劣化がある</li> <li>・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある</li> <li>・ 部分修繕でも対応可能</li> </ul>
			漏水の発生・痕跡の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範囲に少しずつの劣化がある</li> <li>・ 多数の部材に各々少しずつ劣化部分がある</li> <li>・ 部分修繕でも対応可能</li> </ul>
内壁	—	00.0	劣化	—
天井	—	00.0		
床	—	00.0		
建具	—	00.0	劣化	—
			開閉作動・取付け状態	—
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	00.0	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	—	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空気調和設備 換気設備 排煙設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
消火設備	消火設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 30 年以上
エレベーター 設備	—	00.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

○特殊設備の状態

調査部位	種類・形式等	現在の状況
ウォーターカップ	自動	多くのウォーターカップが壊れており、職員がバケツに水を入れて対応している。



(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1988	31	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、福岡県馬術競技場（厩舎）の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 34 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築31年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は34年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

### (2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿って、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

		(百万円)		
区分	項目	実施時期		
		令和元～2年度	令和3～5年度	令和6～8年度
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	6	0
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	17	10
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空気調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	1	21
その他	ウォーターカップ等	5	0	0
計		5	24	31

※上記は実際の前算や事業費等とは異なります。